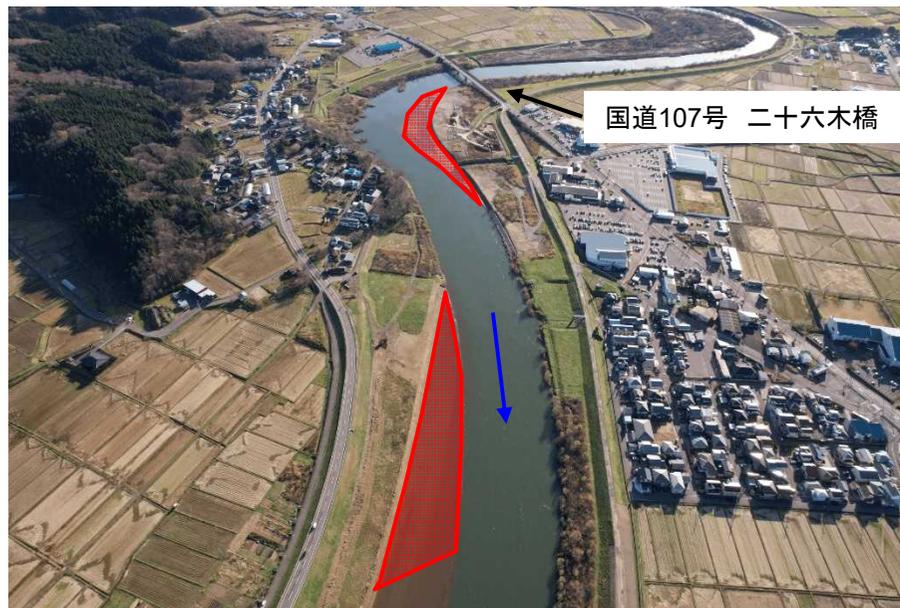


子吉川水系流域治水プロジェクトの更新(案)
令和3年度の取り組み状況(個票)

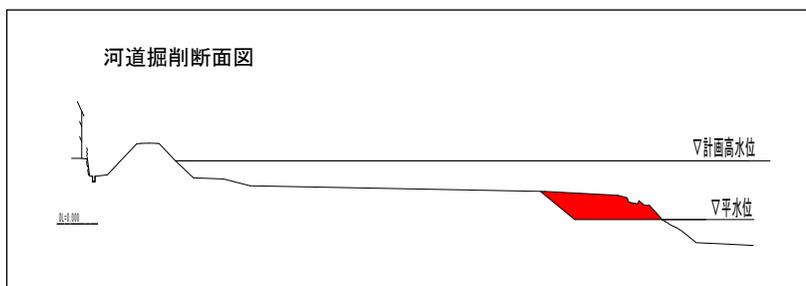
○洪水氾濫対策【河道掘削】

・河川を掘削して水の流れる断面を大きくして水位を下げることで、洪水を安全に流下させる対策として、河道掘削を実施する。

河道掘削 令和3年度 二十六木（とどろき） 地内



▲河道掘削状況



▲河道掘削状況

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

○道路高架区間等の緊急避難場所の整備

- 国土交通省では、東日本大震災を教訓に道路の高架区間等を津波や洪水時の緊急避難場所として活用する取組を推進。
- 国道7号や日本海東北自動車道において避難路等の整備を実施。



【避難路の整備】

①避難路(階段)R3.3月完成



②③避難路入り口



②避難路(スロープ)R3.12月完成



③避難路(スロープ)R3.12月完成



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

被害軽減、早期復旧、復興のための対策

秋田地方気象台
秋田河川国道事務所

○マスメディアと連携した情報発信

- ・住民の方へより危機感を伝え、迅速な避難行動に繋げる情報発信が出来るよう、気象情報を担当する気象台と河川情報を担当する整備局が専門的知見から合同で実施する記者会見に備え、報道機関も含めた本格的な訓練を実施。
- ・秋田地方気象台と東北地方整備局とをWEB接続して合同記者会見訓練を実施。東北では初めての取り組み。

開催状況

- 日 時：令和3年6月22日(火) 13:30~14:40
- 場 所：秋田地方気象台 4階会議室
(東北地方整備局は整備局(仙台市)からWEBで参加)
- 出席者：整備局、気象台およびテレビ局4社、新聞社3社



▲整備局 水災害予報センター(仙台市)での実施状況



▲秋田地方気象台での実施状況

報道機関からの主な意見

- ・実況と今後の見通しが明確で解りやすい。
- ・特に、気象台の資料はどういう行動が必要かまで記載されており、一般の方々に伝わると思う。
- ・日頃からの意見交換を継続し、逃げ遅れの無い避難に繋がる情報発信が出来るようにしていきたい。

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

○教育機関との連携による出前講座・防災教育の拡充

- ・ 秋田県教育委員会が計画する「学校安全外部指導者派遣事業」に協力し、県内の幼稚園から高校までの6教育施設において、防災紙芝居や講義による防災教育を実施。



○秋田県と連携した気象防災ワークショップの開催

- ・ 秋田県と連携し地方公共団体防災担当者向け「気象防災ワークショップ」を開催。各自治体で防災対応の疑似体験をしていただいた。Web会議を利用し開催。

- ・ 2021年7月6日 16市町村6地域振興局
39名が参加（土砂災害編）
- ・ 2021年11月17日 15市町村5地域振興局34名が参加（暴風雪・大雪編）



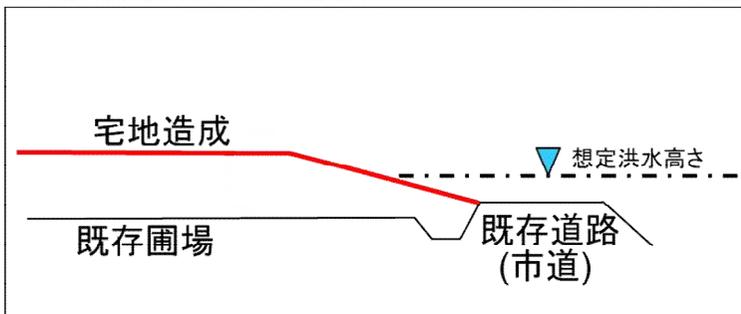
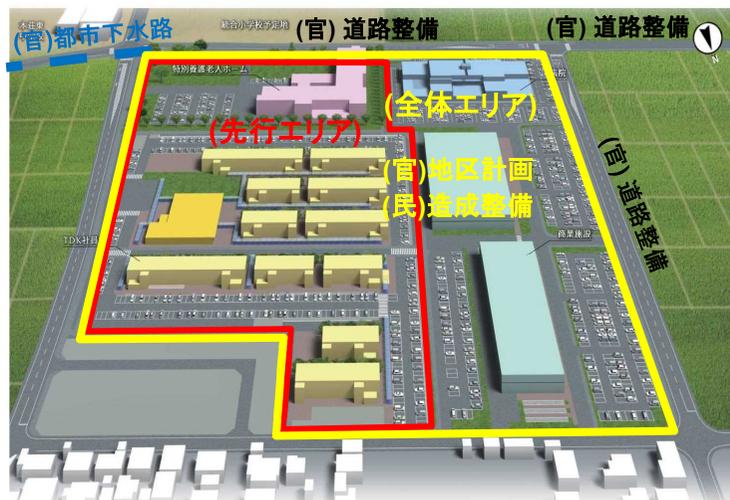
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

○一番堰まちづくりプロジェクト浸水対策【宅地造成】

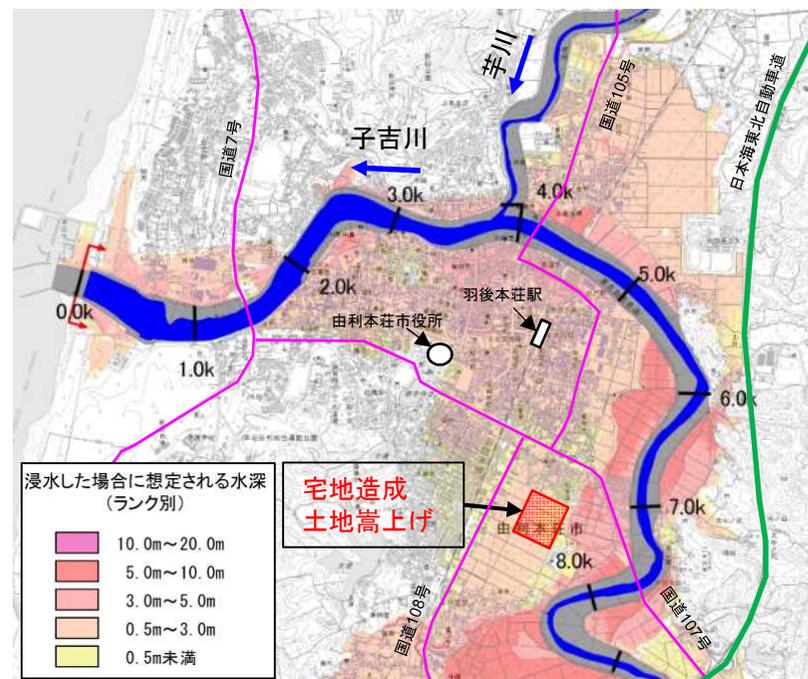
- ・ 土地の高さを嵩上げにより浸水被害の減少対策を合わせた官民連携による宅地造成を行う。
- ・ 由利本荘市と民間企業が連携し、社員寮や病院、特別養護老人ホーム、商業施設が一体となったまちづくりを進める構想。
(居住者400~500人の見込み)

令和3年度:(官)都市下水路および地区計画の都市計画決定
(民)用地買収、造成着手(先行エリア)
令和4年度:(官)都市下水路整備着手、道路整備着手、(民)造成(先行エリア)

R3~R7 宅地造成 約9ha
(薬師堂字一番堰地内)



【想定最大規模の洪水浸水想定区域】



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

○ハザードマップの改良、周知、活用

- 令和2年度において、想定最大規模の浸水想定に対応した洪水ハザードマップを作成し、合わせて、土砂災害、津波、火山の各ハザードマップと防災の知識をまとめた冊子を「わが家の防災マニュアル」として、市内全戸への配布を行い、防災意識の啓発を図った。

◎洪水の雨量基準を変更

これまでは50年または100年に1度の大雨を想定していたものが、千年に1度の雨量基準に変更になり、洪水・土砂災害マップの浸水地域が前回よりも広がりました。



「浸水継続時間」「家庭倒壊等氾濫想定区域」も新しく掲載



▲説明会実施状況

- 全戸配布(令和3年3月)
- 由利本荘市ケーブルテレビにて周知
- 由利本荘市公式HPへの掲載
- 市広報(令和3年3月15日号)への記事掲載

【令和3年度】
19地区で実施(令和4年1月現在)
参加人数 573名

被害軽減、早期復旧、復興のための対策

由利本荘市、にかほ市

○防災教育の促進(自然災害伝承碑の登録・周知)

- ・ 災害教訓の伝承を通じた「防災意識社会」の構築のため、地図を通して災害教訓の「見える化」と子供達への防災教育の促進を図る。
- ・ 令和3年度、自然災害伝承碑に由利本荘市1箇所、にかほ市1箇所登録。(国土地理院ホームページで公開)
- ・ 今後は、小中学校等の防災教育でも周知・活用を図っていく。



①【洪水・地震】R3.12月登録 由利本荘市 八幡神社

概要	
碑名	八幡神社(標柱)
災害名	洪水 (1894年8月25日) 庄内地震 (1894年10月22日) 陸羽地震 (1896年8月31日)
災害種別	洪水・地震
建立年	1897
所在地	秋田県由利本荘市谷地町50
伝承内容	明治27年(1894)8月25日、豪雨により子吉川で洪水が発生。この標柱を約45cm超えるほどの浸水となり、一部の町内を除く本荘市街地全域が浸水し死者20数名を数えた。また同年10月22日の庄内地震、明治29年(1896)年8月31日の陸羽地震では激震に見舞われ、頻りに発生した災害を後世に伝えるために標柱が建立された。

ID:05210-001



②【地震】R3.11月登録 にかほ市 九十九島の碑

概要	
碑名	九十九島の碑(鑑古戒今)
災害名	象潟地震 (1804年7月10日)
災害種別	地震
建立年	1906
所在地	秋田県にかほ市象潟町字象潟島2
伝承内容	象潟(きさかた)は、浅瀬の湖に九十九島が点在し、多くの人が賞賛する風景だった。しかし、1804年の地震で象潟を中心として南北60kmの日本海沿いの地域に被害が及び、多くの家が倒壊し、記録にあるだけでも366人の死者がでた。地震による地盤の隆起域は、象潟を中心とする南北25kmの地域に及び、象潟は180~200cmほど隆起した。島の形は変わり、湖は平田となり、蛸満寺も壊れたが再建した。

ID:05214-001



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。